

# 常光寺々報

2015/ 9

## 秋季彼岸会法要

九月十九日(土)昼一時半～四時

二十日(日)朝十時半～十二時

二十日(日)昼一時半～四時

大阪・吹田市 光明寺住職

ご講師 都呂須 孝文先生

「暮らし たたなきや

はじまらぬ

暮らし 良くなりや

浮き世に のぼせ

大事な 生死を

しくじるに」(作者不詳)

光輪法座 十月三日(土)十三時半

やすらぎ法座 二三日(金)十時～

ご講師の都呂須孝文先生には、平

成二十二年の報恩講さんにご出講いただき、以来の、五年ぶりのご縁になります。先生は人工透析を受けておられますが、それらの困難を押して、ご遠方から出講をいただきます。きつと、皆さんにお伝えしたいこと、聞いてもらいたいことも沢山おありだろうと思います。

どうぞ、そんな先生の篤い思いに  
応えて、皆様方も大勢お参りをいただき、ご聴聞くださいますよう、ご案内を申し上げます。

## ご寄進の芳名版

ご本堂の大修復事業に際しましては、皆様方に多大のご協賛・ご協力をいただきました。おかげさまで、後世にのこる立派なご本堂ができて、

芳名版につきましては、これまで

帰依処の前にあつたものは取り壊し、新たに保存用を製作して、本堂の中に掲示してあります。

入念に照合していただきますので、誤記はないと思いますが、どうぞ、ご自分をご確認ください。

## 還曆式

いつの間にか古希を迎えました。入寺してから46年、住職になってからでも28年になりました。気がつけば、お寺の世話人会も、光輪会も同じように歳をとったようです。

鹿児島別院では、還曆を仏前でお祝いする『仏前還曆式』が行われているようです。常光寺でも見習ってやってみたいと思います。そして、還曆をこえた人たちの集いを、夜、隔月ぐらいでもてたらいいな、と思っています。

## 少女の言葉

まず、小学六年の少女が、ある農地実験所をたずねたあとに書いた作文を紹介します。

《人間は、生きるために鶏も殺さなくちやいけないし、豚も殺さなくちやいけない。生きるってことは、ずいぶん迷惑をかけることなんだなあ。

自分で自分のことを全部できたら、人は一人ぼっちになってしまう。

他人に迷惑をかけるということは、その人とつながりをもつことなんだ。

他人の世話をするってことは、その人に愛をもつことなんだ。

生きるってことは、たくさんいのちとつながりをもつことなんだ。

お乳をやった私に、温かい身体をおしつけてきた子牛に私は思った。《

すごいですね、人間が生きるってこと

を、小学生とは思えないほど深く捉えていますね。子供の方が打算がなく、命を見る目が敏感なのでしょうか。大人の目が煩惱で曇りすぎているのでしょうか。

\* \* \*

人間の目はますます煩惱によって濁っていくようです。五月一日の本願寺新報に、こんな法話が載っていました。

《息子が小さな頃、『お父さん、お互いさま』って、どういう意味?』と尋ねられ、ドキッとしたことがあります。

確かに近頃は、責任を押し付け合う姿は目にしても、「お互いさま」と責任を取り合うシーンは、テレビドラマでも見ることはありません。……

考えてみれば、「縁の下の力持ち」という言葉も聞かなくなりました。見えないところで支えてくださる方への、敬い的心が見失われてきたということでしょう

か。いや、そこまで深く物事を考えることのない、薄っぺらな生き方が広がっているのかもしれない。……

もう一つ言えば、ひと昔前までは牛や豚を「育てる」と言いました。ところが今やニュースでも、牛や豚を「生産する」と当たり前のように言い切っています。

気がつけば「消費する」「投資する」など、私たちの生活を経済用語であらわす時代になりました。海の魚は「海産資源」、木は「森林資源」、人は「人的資源」だそうです。…… 自然の恵みを「いただく」

という謙虚さは失われ、「資源」としか見ない傲慢な考え方が広がっています。「いただきます」「ご馳走さま」が言えなくなるはずです。……

と話されて、「言葉が失われるとは、心が失われるということですよ。」と教示されています。私たちはもっと謙虚に少女の言葉に耳をすましたいものです。